

自立活動学習指導案

自閉症・情緒障害、LD・ADHD等通級指導教室（あけぼの教室）4人（5年男子2人，5年女子2人）
指導者 T1 中水 一元 T2 中原 雅弘 T3 清藤 大嗣 T4 園山 るみ

1 題材名 みんなで楽しく伝え合おう

2 題材の目標

- 友達や先生と一緒にゲームをすることで、人と関わり合う楽しさを味わうことができる。
- 聞き方のポイント（相手を見て・うなずきながら・最後まで）や伝え方のポイント（一つずつ・はっきりと・交互に）に気を付けて、他者とコミュニケーションを図ることができる。
- いろいろなゲームや話し合いの中で、友達とそれぞれの考えを伝え合い、協力して活動することができる。

3 題材について

(1) 題材の価値

対象となる子ども4人は、あけぼの教室において、友達や周りの人と関わり合うことを楽しんでいる。また、自分の興味があることや楽しかった出来事について、積極的に伝えようとする姿も見られる。しかし、話し手となったとき、聞き手を意識して声の大きさや話す速さなどを調整することが難しく、話の内容が十分に伝わらないこともある。また、相手の気持ちや関心に意識を向けづらく、自分だけが一方的に話してしまうことも少なくない。逆に、聞き手になったとき、話し手が話をしている途中で自分の話を始めてしまったり、話し手の話を最後まで聞くことができなかったりすることもある。

そこで、本題材では、教師や友達と情報や考えを伝え合う活動をする中で、人と関わり合い、相手の言いたいことを聞いて分かる楽しさや、自分の考えを伝える楽しさを味わうことができるようにする。また、「相手の話を聞くためのポイント」や「情報や考えを相手に分かりやすく伝えるためのポイント」などを学ぶことで、友達と伝え合い、協力して一つのことをやり遂げることへの達成感や喜びを十分に味わうことができるようにする。そして、このような成功の体験を積み重ねることで、自己肯定感を高めるとともに、他者とコミュニケーションを取りたいというさらなる意欲化につながるようにする。

指導に当たっては、まず、子どもの「聞く力と伝える力」がどのくらいであるのかというチェックリストを活用し、実態把握をする。そして、個別の実態に合った個人目標の設定をする。なお、「聞き方と伝え方」の大切なポイントについては、子どもが視覚的に判断できるVTRを視聴することで、気付くことができるようにする。次に、そのポイントを意識し、教師や友達と関わり合いながら、楽しく情報や考えを伝え合うことができるゲームを用意する。ゲームの内容や順序は、①二人一組で、絵や写真に関する情報を、簡単な言葉で相手に伝えられるようにする。②段階を踏んで与える情報量を増やしていき、お互いの情報を伝え合うようにする。③二人一組の活動から4人というグループでの活動へと発展させる。④それまでの与えられた情報をもとにした伝え合いから、自分の考えの伝え合いへと移行し、お楽しみ会の計画について話し合うようにする。なお、これらの活動の際には、「相手の話を聞くためのポイント」と「情報や考えを相手に分かりやすく伝えるためのポイント」を整理して提示し、子どもが繰り返し活用することで、「聞く」スキル・「伝える」スキルを高めていくことができるようにする。また、場合によっては、教師が伝えるタイミングを知らせるなど、調整役になることで、子どもが抵抗なく課題に取り組むことができるようにする。そして、自分や友達の「聞き方と伝え方」をVTRで視覚的に振り返り、成長した自分や相手の良さを発表する場を毎回意図的に設けることで、うまく伝え合うことができたという自信をもつとともに、相手のことも認めることができるようにする。

これらの学習を通して、子どもたちは友達と関わる楽しさや、協力して一つのことを成し遂げる喜びを味わうことができると考える。また、協力して活動し、相手に自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりすることで、よりよい考えを生み出すことができたという喜びや満足感をもつことができると考える。このことは、子どもの自己肯定感を高めるとともに、周囲の人ともしっかりコミュニケーションを図っていこうとする意欲につながり、子どもの生活をさらに豊かにしていくことになると考える。

(2) 子どもの実態

児童名		A児（5年男子）	B児（5年男子）	C児（5年女子）	D児（5年女子）
教育的ニーズ		- 自分の考えや気持ちを分かりやすく伝えることができるようになること。 - 人の話を最後まで聞くことができるようになること。	- 自分の考えや気持ちを分かりやすく伝えることができるようになること。 - 相手の気持ちや場の雰囲気を考えた言動ができるようになること。	- 人の話を最後まで聞いて、自分の言葉で思いや考えを伝えることができるようになること。 - 苦手なことに対して、自分から進んで取り組むことができるようになること。	- 自分が気になっていることや自分の意思を伝えることができるようになること。 - 話の内容が分からなかったり、聞き逃したりしたときに、聞き返すことができるようになること。
コミュニケーション	聞く	話の内容はよく理解できるが、相手を見て聞くことができないことがある。また、最後まで話を聞くことができずに、内容の聞き返しが多い。	- 集団の中では集中して聞くことが難しく、聞き逃すこともある。 - 相手を凝視して話を聞くなど、極端な聞き方になってしまうことがある。	- 集中を持続させ、最後まで話を聞くことが難しく、話の内容を聞き逃すことがある。 - 耳で聞いた情報を一時的に保持することが苦手である。	相手を見て最後まで話を聞き、話の内容を理解することができるが、話の内容が分からないときに聞き返すことは難しい。
	伝える	自分の考えや気持ちを伝えるときに、はじめはみんなに聞こえる声の大きさと話すが、次第に小さな声になってしまう。	自分の興味のある話は積極的に話すことができるが、相手の様子をうかがえずに一方的になってしまう。	- 話に夢中になると、自分ばかり一方的に話してしまうことがある。 - 自分の気持ちを伝えることができるようになってきたが、集団では難しい。	自信があることは伝えることができるが、自信がないと伝えられず、困っていることがある。また、集団になると、自分の考えを伝えられないことがある。
心理的な安定		いつもは穏やかで意欲的であるが、苦手意識が先行してしまうと、イライラしたり、気持ちが落ち込んでしまったりすることがある。	相手に自分の考えや思いが伝わらないなど、自分の思い通りにならないときに、イライラして気持ちを落ち着かせることが難しくなる。	苦手意識をもっている活動に関しては、気持ちを切り替えて取り組むまでに、時間を要することがある。	いつも穏やかであるが、不安に思うことをうまく伝えたり、発散したりすることができずに、情緒が不安定になることがある。
人間関係の形成	他者とのかわり	友達と仲良く一緒に遊んだり話をしたりすることができる。しかし、勝敗のつく活動で負けそうになると、投げやりになったり、途中で止めてしまったりすることがある。	- 共通の話題がある人とは、楽しく関わるることができる。 - 相手の気持ちの理解が難しく、自分の考えや思いが伝わらないときに、手が出てしまうことがある。	友達と仲良く一緒に遊んだり話をしたりすることができる。また、活動の際には、友達を励ましたり、気遣ったりすることができる。	友達と仲良く過ごすことができるが、相手の反応が気になり、自分から積極的に相手に関わっていくことは少ない。
	集団への参加	自分のやりたいことへの思いが強く、したいことと状況に折り合いを付けることが難しい。しかし、少しずつ友達に合わせて仲良く遊ぶことができるようになってきている。	ルールを理解して、みんなと楽しく活動することができる。しかし、場の状況が読み取れずに、集団での活動にうまく参加できないことがある。	- ルールを守って、仲良く活動することができる。 - 自分のしたいことと状況に折り合いを付けながら、楽しく遊ぶことができるようになってきている。	ルールを守ってみんなと活動を楽しむことができる。少しずつ、集団への所属意識が芽生えつつあり、自分の意思をもって参加できるようになってきた。

4 指導に当たって

- 導入の段階（一次）では、円滑にコミュニケーションがとれている場面ととれていない場面の様子をVTRで視聴することで、比較するという思考活動を促し、「聞き方と伝え方」のポイントに気付かせ、個人目標を意識することができるようにする。
- 展開の段階（二次）では、二人一組の活動から、グループでの活動に発展させ、交流の難易度を上げる。また、片方の情報だけでは解決できない活動を通して、お互いの情報を「伝える」活動から「伝え合う」活動へと高めていく。そのことで、双方向の交流を促し、思考を深め、高め合うことができるようにする。
- 終末の段階（三次）では、実生活の場面を想定し、「やってみたい」と思えるような場を設定する。その中で、それぞれの考えを伝え合い、一つにまとめる話し合い活動をする。活動の中では、相手の意見の聞き方や自分の意見の伝え方を振り返り、これまでの学習を生かすことができるようにすることで、「聞く」スキルと「伝える」スキルをさらに高め、主体的に話し合いが進められるようにする。そのことで、在籍校でもやってみようという意欲につながることができるようにする。

5 指導計画（総時数 10 時間）

次	時間	題材を貫く 学習問題	形態	指導のねらいと主な活動内容
一次	1		全員で (四人)	「聞くとき・伝えるときに大切なことは？」 【指導のねらい】 話の聞き方や伝え方のポイントに気付くことができるようにする。 【活動内容】 1 VTRを見て、話の聞き方や相手が分かりやすい伝え方のポイントを確認する。 2 ゲームの仕方を聞く。 3 実際にゲームをする。
二次	2		分かれて (二人)	「相手に伝えよう」 第1時 「言葉でコピー」 第2時 「グッドヒント！」 【指導のねらい】 話の聞き方や伝え方のポイントに気を付けて、自分が知っている情報を相手に分かりやすく伝えることができるようにする。 【活動内容】 1 話の聞き方や相手が分かりやすい伝え方のポイントを確認する。 2 ゲームの仕方を聞く。 3 実際にゲームをする。
	2	みんなで楽しく伝え合おう	分かれて (二人)	「二人で伝え合おう」 第1時 「力を合わせて間違い探しⅠ」 第2時 「力を合わせて間違い探しⅡ」 【指導のねらい】 話の聞き方や伝え方のポイントに気を付けて、二人でお互いの情報を伝え合い、協力して間違いを探すことができるようにする。 【活動内容】 1 話の聞き方や相手が分かりやすい伝え方のポイントを確認する。 2 ゲームの仕方を聞く。 3 実際にゲームをする。
	2 (本時 2/2)		全員で (四人)	「4人で伝え合おう」 第1時 「力を合わせてカード並べⅠ」 第2時 「力を合わせてカード並べⅡ」 【指導のねらい】 話の聞き方や伝え方のポイントに気を付けて、4人でお互いの情報を伝え合い、協力して順序よくカードを並べることができるようにする。 【活動内容】 1 話の聞き方や相手が分かりやすい伝え方のポイントを確認する。 2 ゲームの仕方を聞く。 3 実際にゲームをする。
三次	3		全員で (四人)	「みんなで話し合おう」 【指導のねらい】 話の聞き方や伝え方のポイントを意識し、それぞれの考えを伝え合い、一つにまとめることができるようにする。 【活動内容】 1 お楽しみ会の計画を立てる。 2 お楽しみ会の準備をする。 3 お楽しみ会を開く。

家庭や在籍校との連携

目 標
【家庭】 ○ 話の聞き方や伝え方のポイントを意識して、家族と話をすることができる。 【在籍校】 ○ 話の聞き方や伝え方のポイントを意識して、学校生活の中で話をすることができる。
【家庭】 第2週目以降 ○ 伝えるときに大切なポイントを意識して、家族に学校での出来事を伝えることができたなら、あけぼのノートなどで通級担当者に知らせてもらう。 第4週目以降 ○ 聞くとき・伝えるときに大切なポイントを意識して、家族に学校での出来事を伝えたり、家族の話を聞いたりすることができたなら、あけぼのノートなどで通級担当者に知らせてもらう。 【在籍校】 第2週目以降 ○ 聞くときに大切なポイントを意識して、先生や友達の話を聞くことができたなら、あけぼのノートなどで通級担当者に知らせてもらう。 第4週目以降 ○ 聞くとき・伝えるときに大切なポイントを意識して、学校生活の中で話をすることができたなら、あけぼのノートなどで通級担当者に知らせてもらう。

6 本 時（7／10）

(1) 目 標

個人 目 標	○	伝え合うときに大切なポイントに気を付けて、4人でお互いの情報を伝え合い、絵を完成させることができる。	
	A児	相手の話を最後まで聞き、自分の絵カードの情報を相手に聞こえる声の大きさと伝えることができる。	
	B児	相手を見てうなずきながら相手の話を聞き、自分の絵カードの情報を相手に聞こえる声の大きさと一つずつ伝えることができる。	
	C児	相手の話を最後まで聞き、聞き逃したり理解できなかったりしたときは、話型を使って聞き返すことができる。	
標	D児	相手に確認されたときに分からないことを聞き返したり、友達に尋ねられたときに情報を一つずつ伝えたりすることができる。	

(2) 「思考活動」を充実させる他者との交流

○ VTRで話合いの様子を振り返ることで、個人目標を意識しながら活動することができるようにする。

(3) 展 開

過 程 (分)		主 な 学 習 活 動		子どもに応じた具体的な指導					
				A 児	B 児	C 児	D 児		
つかむ・見通す (7)	1 はじまりのあいさつをする。	○ 題材マップを使って、これまでの活動を振り返るとともに、本時の学習への見通しをもつことができるようにする。 ○ 聞くときと伝えるときに大切なポイントを再確認することで、本時の学習の中で意識して活用することができるようにする。 ○ 聞くときと伝えるときに大切なポイントの中で、個人のめあてを焦点化することで、今日頑張ることを決めることができるようにする。 ○ 自分のめあてをワークシートに書いたり、みんなの前で発表したりすることで、今日頑張ることへの意識を高めることができるようにする。 ○ 学習の進め方やゲームのルールを確認することで、子どもが見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。 ○ 自分の意見を伝えるときには、マイクを持つというルールにすることで、話し手や聞き手としての意識を高めることができるようにする。 ○ 手元に「相手を見て」「最後まで」のミニカードを置くことで、相手を見て最後まで話を聞くことができるようにする。 ○ 声のものをさしを提示することで、相手に聞こえる声の大きさを意識して話すことができるようにする。 ○ 一つのことに1回うなずいたり、相手を見て聞いたりすることができたときは称賛することで、自信をもって活動に取り組むことができるようにする。 ○ 相手に伝わったか確認することで、相手に聞こえる声の大きさを意識することができるようにする。 ☆ ゲームⅠの後、話合いの様子をVTRで確認することで、自分や友達の見聞き方や伝え方の良かった点を振り返ることができるようにするとともに、今日頑張ることへの意識をさらに高め、ゲームⅡに取り組むことができるようにする。 ○ 4人で絵を完成させる活動を行うことで、協力して活動する楽しさや喜びを感じることができるようにする。 ○ 情報がうまく伝わらない場合は、必要に応じて教師が調整役として入り、子どもが抵抗なく課題に取り組むことができるようにする。 ☆ ゲームⅡの様子をVTRで確認し、聞くときと伝えるときの大切なポイントと比較しながら見ることで、個人目標が達成できているかを視覚的に確認し、できていたという達成感を味わうことができるようにする。 ○ 毎時間終了後にもらったキーワードをつなげ、どんな言葉になるかをみんなでやりとりしながら考えることで、次時の活動への意欲を喚起することができるようにする。							
	2 前時までの学習について振り返り、伝え合うときに大切なポイントを確認する。 ◎想起								
	活動する (30)							<table><tr><td>聞くとき</td><td>伝えるとき</td></tr><tr><td>相手を見て うなずきながら 最後まで</td><td>一つずつ はっきりと 交互に</td></tr></table>	聞くとき
聞くとき	伝えるとき								
相手を見て うなずきながら 最後まで	一つずつ はっきりと 交互に								
振り返る (8)	3 本時のめあてを知る。	「聞くとき」「伝えるとき」のポイントに気を付けて、絵を完成させるために4人で情報を伝え合おう。 (1) めあてを声に出して読む。 (2) めあてをワークシートに書き写す。							
	4 「力を合わせてカード並べ」をする。 ◎想起	(1) 活動の見通しをもつ。 ア カードを選ぶ。 イ カードの情報を伝え合う。 ウ カードを並べ、絵が完成しているかを確認する。 (2) ゲームのルールを確認する。 ア 手持ちのカードは他の人に見せない。 イ 話す人はマイクを持ってから話す。 (3) ゲームⅠをする。 (4) VTRで話合いの様子を振り返る。 (5) ゲームⅡをする。							
	5 本時を振り返り、感想を発表する。 ◎想起・比較								
	6 次時の活動について知る。								
	7 おわりのあいさつをする。								

◎は「思考活動」 ☆はICT活用の留意点

☆ ゲームⅠの後、話合いの様子をVTRで確認することで、自分や友達の聞き方や伝え方の良かった点を振り返ることができるようにするとともに、今日頑張ることへの意識をさらに高め、ゲームⅡに取り組むことができるようにする。
○ 4人で絵を完成させる活動を行うことで、協力して活動する楽しさや喜びを感じることができるようにする。
○ 情報がうまく伝わらない場合は、必要に応じて教師が調整役として入り、子どもが抵抗なく課題に取り組むことができるようにする。
☆ ゲームⅡの様子をVTRで確認し、聞くときと伝えるときの大切なポイントと比較しながら見ることで、個人目標が達成できているかを視覚的に確認し、できていたという達成感を味わうことができるようにする。
○ 毎時間終了後にもらったキーワードをつなげ、どんな言葉になるかをみんなでやりとりしながら考えることで、次時の活動への意欲を喚起することができるようにする。